



全国リレーエッセー  
石川県

石川県船倉(へぐら)島。バードウッチングでは日本有数の島です。島には店も乗用車もありません。輪島から船でおよそ一時間半。しかも一日一往復です。毎日、船が着く十時半には、港で荷物運びを兼ねて皆さんにあいさつをし、道端で健康相談をします。

### 看護師もいない

診療所は一九六一年ごろに開設され、はじめは、地元医師が常駐していました。その医師が高齢となったため辞めてから、自治医大卒業生が赴任することとなったそうです。八〇年度が最初の赴任で、それ以来、

# 診療から事務すべて1人

半年交代で自治医大の先輩方が所長を受け継いできました。診療所の特徴は、なんとつ

ても、職員が医師一人、看護師

像、器具の滅菌、薬の管理、現

め合わせ、医療事務まですべて一人です。時間のあるときは一時間ぐら

を迎え、その後、患者さんの家で点滴したこともあり。一人での診療には限界があります。島には海女さんが多くいますが、彼女たちは、仕事柄、目、耳、鼻を患うことが多く、耳鼻科、眼科の専門的な診断、治療が必要となります。

一人であることのメリットは、患者さんと話しながら、ゆっくり自分のペースでやれることです。時間のあるときは一時間ぐら

の総合診療を行っています。この診療によって、島民の健康が維持できており、なんとか一人でも診療できているのだと思います。

一番困るのは急患が出たときです。診療所で可能な検査、処置は限られています。本土の病院に搬送が必要かどうか、搬送手段はどうするか、医師は同乗するべきかどうか、などを判断しなければなりません。このことを考えながら急患の診療にあたります。

この島は不便な環境ですが、島民はお互いのことを思いやり、助けあって一生懸命生きています。そのひたむきに生きる姿から学ぶこと、感じることも多く、地域医療の素晴らしさを実感しています。半年という短い任期ですが、少しでも島の人々の役に立てるように、がんばっています。

### 住民から学ぶ

また、診療所には入院設備がないので、長時間の点滴を必要とした患者さんについては、点滴しながら雑談をし、一緒に朝

(次回予定は大分県)

やまもと だいすけ 山本 大輔 27期生・2004年卒



本年度の船倉島総合検診で集まったスタッフ。今年も多数の島民が受診し充実した検診となった。前列左端が山本大輔所長

### 船倉診療所

【私の勤務地】石川県輪島市から50キロ北に位置しており、毎日1往復の定期船が出ている。外周約4キロの平らな小さな島で、人口は季節によって変動し、夏場が150人程度、冬場は50人まで減少する。海女の島ともよばれ、アワビ、サザエをはじめとした漁業が中心の島である。